

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程，学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・24年度の結果より全ての項目においてプラスに転じてはいるが，23年度と比較するとまだ低い状況である。 ・評価がどのように行われているのかの認識が低下傾向。各教科のシラバスを示す段階での説明について検討が必要。 ・習熟度別及び少人数授業の評価を上げる努力がまだまだ必要。各教科における取組について連携を図る。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・授業評価を実施，分析して授業改善を継続する。 ・公開授業、研究授業を計画的に行い，教科研究会を実施して指導力向上に努める。 ・習熟度別授業，進路希望別授業を充実する。 ・初期指導，定着指導を徹底し，学習習慣を確立する。 ・学びなおしの機会を設定する。 ・新教育課程を完成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年会及び教科会と連携する。 ・全校での公開授業，研究授業の実施。 ・教育課程委員会，学習指導委員会の運営	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 本校の向かうべき姿の共通理解 (2) 公開授業と研究授業の実施，分析 (3) 教育課程の編成 (4) 情報発信の充実	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 授業評価 (2) 定期考査，課題テスト，模試等の統計 (3) 新教育課程のさらなる充実と完成 (4) ウェブサイトの充実
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や公開授業による指導力向上 ・授業評価による授業の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の設定と評価 ・各教科による新教育課程の検証及び評価 	①授業は改善されたか ②家庭学習時間は増えたか ③個に応じた学力はついたか ④教育活動は円滑に行われているか ⑤生徒は満足しているか	A (B) C D A B (C) D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○研究授業や公開授業を行うことにより，授業改善への意識を高め，教員間での交流ができた。 ○初期指導，定着指導が体系化され充実した。 ○教育課程をさらに見直し，26年度へつなげることができた。 ●本校の取組が保護者を含め，外部に対して伝わっていない状況が改善されていない。 ●中学校の本校希望者の数がなかなか増加を見込めない状況にある。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・学校開放における公開授業について複数日を設け，参加しやすい環境設定を行うことを含め，外部に対して積極的な広報に努める。		
総合評価 A (B) C D		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 学校としての指導の姿勢を、保護者の方々に十分理解していただき、「体罰」の項目にしる「相談に親身に乗ってくれない」の項目にしる、相手側がどう受け止めるかをしっかりと認識し、誤解のないように生徒への指導を進めていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・ 倫理観や規範意識を育てる。 ・ 高校生活適応指導を進め、「不登校」や「いじめ」の早期発見、対応に努め、自他の人権と生命を尊重する態度を育てる。 ・ 交通マナーや情報モラルを守る指導を進め、危機管理能力を育てる。 ・ 家庭や関係諸機関と連絡を密にし、地域と一体となって生徒の健全な生活態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 学年会や関係分掌と常に連絡を密にし、全職員が情報を共有して迅速に対応できる体制をとる。 ・ 生徒に対する諸指導の役割を全職員で分担する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・ 「生徒指導の指針」及び「危機管理マニュアル」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行う。 ・ 生徒及び職員に、機会ある毎に「生活規律、規範」への注意事項を具体的に提示し、その場で指摘、改善指導を行う。 ・ 情報の共有を図り、早急かつ適切な対応を行う。	・ 同一基準で指導ができ、基本的な生活習慣が確立され、規範意識が高揚してきているか。 ・ 生徒個々の人権が尊重され、安全、安心な高校生活が送られているか。 ・ 高校生活に適応できているか。 ・ マニフェストの数値目標の達成。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ 日々の生活点検指導（登校指導、交通指導、巡回指導等）の実施。 ・ 生活意識と規範意識の高揚を図る為の文書の配布と注意呼びかけの実施。 ・ MS リーダーズ活動の援助を実施。	① 問題行動の状況や件数。 ② 基本的な生活習慣や規範意識が確立され、安全、安心な生活を送ることができているか。 ③ 毎日登校できているか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果課題	総合評価	
○ 頭髪服装検査における、違反者が減少した。 ○ 大きな問題となるようないじめはなかった。 ○ 携帯電話やスマホに関する問題がなかった。 ・ ● 登校時の自転車事故が数件あった。 ● 挨拶されても返せない生徒がまだ多くいる。 ● 自分の将来を考えた自己決定、自己選択ができない生徒がいる。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 来年度に向けての改善方策案		
・ 日常的に、生徒の生活状況や情報の把握を行い、早急かつ適切な対応指導を組織的に進める。 ・ 「交通マナーや情報モラル」を守ることの徹底を図るとともに、人権侵害行為の未然防止に努める。 ・ 生活委員の意識を高め、挨拶運動等もっと積極的に活動できるように援助する。 ・ 保護者や地域からの声を真摯に受け止め、迅速かつ丁寧に対応し、地域とともに生徒を育成する。		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒は、本校の進路指導を全体として肯定的に評価しており、特に個別の情報提供や指導に対してより関心を持っている。 ・保護者も本校の進路指導を全体として肯定的に評価しているが、生徒の適性・能力にあったさらなる指導を求めている。 ・3年生の個々に対する指導がもう一歩である。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 生徒が適性・能力にかない、生きがいを持って人生を歩めるライフプランができるようキャリア教育を進める。 ◇ 生徒・保護者・職員に向けて進路情報の提供を充実させる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・渉外部及び各学年会との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 進路指導計画に基づき、低学年の進路学習小論文学習の計画を検討する。 (2) 模試のデータ分析を各教科の指導に活かす工夫をする。	(1) 進路研究や小論文学習を通じて、各自の進路意識が深められたかどうか。 (2) 模試分析が教科指導等に活かさせているかどうか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・3年生の面接・小論文指導を全教員で当たる。 ・総合的な学習の時間において、1年「進路研究」2年「小論文学習」を行う。 ・模試の結果分析を充実させ、進路実現のための資料提供をよりよいものとする。	①できるだけ早い時期に進路目標を設定できたか。 ②情報を分析して、自分の意見をまとめる力がついたか。 ③模試等の結果を分析し、教科指導等に活用できたか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D	
11 成果・課題	○3年生の面接・小論文指導を全教員で当たることで、特に就職・一般専門学校志望者に対し、適切な指導ができた。 ○小論文指導計画をさらに見直し、計画的な指導を行うようにした。 ●模試の結果分析を各教科でも行い特に授業において活用する。 ●学力層の変化に伴い、一般専門学校志望者・就職志望者・推薦志望者が増加している一方でセンター試験受験者もいる。どのように指導していくか。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
・進路希望調査や担任面談の結果を分析し、学校としての進路指導方針を再考する。 ・模試結果分析を授業内で反映し、生徒にフィードバックする。 ・低学年でのキャリア教育の充実（インターンシップ、卒業生による社会人講話等）			

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事（球技大会・柏葉祭等）に充実感や達成感を味わっている。 ・部活動は多くの生徒が活発であると感じている。 ・保護者からも、上記のいずれも活発に活動しており、期待感を示している。 ・ボランティア活動では生徒・保護者共に広報活動が十分とは言えない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実を図る。部活動に目的意識を持って、自主的・自発的に参加させることにより、部活動のより一層の活性化を図る。ボランティア活動の活性化を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・定例的に執行部会をもつなど生徒会執行部と特活職員の連携を密にする。 ・部顧問の適正な配置 ・特活部と他の分掌、担任との連携を密にする。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 執行部会・生徒議会・各種委員会活動の活性化 広報活動の活性化 (2) 部活動の形態・内容・方法・環境整備等の援助 部紹介・壮行会・伝達表彰の実施	(1) 球技大会及び柏葉祭等 生徒会行事への取り組み状況 アンケートの実施とその結果分析 (2) 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数 入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会諸行事に向けて執行部会、生徒議会、体育委員会、文化委員会、柏葉祭実行委員会等の会議の開催と、広報活動による情報提供 ・ 部紹介、壮行会、伝達表彰の実施 部活動費及び備品費の適正配分と活動環境の整備 ・ 老人ホーム訪問など定期的なボランティア活動の実施、サンゴ礁保護支援活動 	① 生徒会活動を活性化させ、球技大会・柏葉祭等の諸行事に充実感や達成感を味わせることができたか。 ② 目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。 ③ ボランティア活動に主体的に取り組ませることができたか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒会行事では、それぞれのねらいに応じた全校生徒の主体的な取り組みと協力体制により、その行事の成果に充実感や達成感を味わうことができた。 ○部活動では、年間を通し目的意識を持って積極的に参加することができた。最優秀賞の受賞や地区総体の優勝などめざましい活動があった。 ○ボランティア活動では、家庭クラブによる老人ホーム訪問、生徒会による募金活動やMSリーダーズによる清掃活動など積極的に取り組めた。 ●柏葉祭や球技大会などの諸行事での企画・運営等を一層充実させる手立ての検討 ●部活動での顧問の適正配置の検討	
12 来年度に向けての改善方策案		
○生徒会活動のより一層の活性化を図るとともに、生徒会行事を通して集団への所属感や生徒相互の連帯感及び好ましい人間関係を深めさせたい。また、生徒会行事における職員のより一層の共通理解を深めていきたい ○部活動を通して責任感や連帯感等の人間関係を形成するため、目的意識を持って自主的、自発的に部活動に参加できるように指導・援助をしたい。また、顧問の配置については、職員の理解を得ながらより適正な配置ができるようにしていきたい。		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 保健管理・安全管理	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理・安全指導については、肯定的意見が昨年度に続き減少しているとはいえ、全体的には高い評価である。養護教諭を中心として、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮している。また、安全・衛生面では事務部との連携を図りながら、早めの対応に努めている。 ・ 地震や台風などの場合の対応についての対策マニュアルに対する周知徹底を一層図る必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 各種検診の受診結果を把握、自己の健康管理ができるようにする。 ◇ 事故防止や安全管理に対する意識の高揚に努める。 ◇ 積極的な環境美化に努める（特にトイレ清掃について）。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健委員会、安全衛生委員会 ・ 生徒保健委員会、環境委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各種検診の事後措置、健康相談 (2) 生徒対象の保健だより	(1) 検診後、精密検査等の再受診率 (2) 日本スポーツ振興センターへの災害報告等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒個人への受診勧告、健康相談保健だより等での健康面の啓発活動 ・ 職員・生徒への事故防止の周知徹底 体育授業時、部活動時における事前指導及び点検 ・ 毎月1回、職員による施設等の安全点検、職員と生徒による教室環境衛生点検・トイレ環境衛生点検 ・ 環境委員によるゴミの分別収集、トイレ使用マナーの励行 	① 生徒の健康管理 ② 事故防止 ③ 安全管理、環境整備	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種検診・検査については職員の協力や生徒の受診マナーも良好であったため、滞りなく実施できた。 ○ 保健委員によるトイレ点検・保健だよりの発行、また、本年度より行っている職員と生徒による環境衛生点検により、環境美化に対する意識が向上してきた。環境委員によるゴミ分別収集等の校内の保健衛生活動に積極的に協力してくれた。 ● トイレの使用マナーまだ十分とは言えない。マナー教育が課題である。 	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の健康管理や安全管理については、常時現状を把握し、状況によっては素早い対応で生徒、保護者に情報を流し啓発することに努めたい。 ・ 清掃に関しては、環境委員や保健委員の委員会活動を生かしながら、各掃除箇所の美化意識の高揚とトイレ使用マナーの徹底を呼びかけるなど、より一層の環境美化の推進に努めたい。 		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 育友会員との連携	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者も生徒も育友会の活動がよくわからないという意見が多い。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇育友会員に対して、育友会主催行事への積極的な参加と協力を促す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・本部役員，学級委員の方々との連絡・連携を密にする。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 育友会主催の行事に対して、事前に関く役員会で綿密な計画を立て、円滑に運営する。 (2) 「文化祭のバザー」で、生徒と育友会員との交流を図る。 (3) 「大学等見学会」「進路フォーラム」に親子で参加し、交流を深める。	(1) 育友会員が意欲的に行事に参加できたか。 (2) バザーで育友会員と生徒が交流できたか。 (3) 参加者の数、および行事後のアンケート分析。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
育友会総会， 大学等見学会 登校指導， 面接指導， 文化祭のバザー， 育友会報，	吉高ニュース 進路フォーラム ①活動状況 ②行事の内容 ③行事の参加者数	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○ 「吉高ニュース」の発行によって、地域の方々に本校の活動を知っていただくことができた。 ○ 「進路フォーラム」では、パネリスト（昨年度卒業生の保護者3名、5年前の卒業生3名）の方々の体験談を聞き、進路選択の参考になった。 ○ 「大学等見学会」は金沢方面で、金沢大学と金沢工業大学と金沢学院大学を見学し、それぞれ有益な情報が得られた。 ○ 「文化祭のバザー」では、多くの育友会員の方々のご協力とご努力で、雨にもかかわらず商品は全て売り切れ、生徒の間の評判も大変良く、保護者と生徒の交流も含めて素晴らしい1日であった。 ○ 「面接指導」では、本番さながらの面接をすることができ、進路指導の一助となることができた。 ● 「進路フォーラム」や「大学等見学会」など、参加するとその素晴らしさが実感できる行事があるにも関わらず、それが伝わっていないようなので、育友会総会や文化祭などの保護者が学校へ来る機会をもっと有効に活用して、啓蒙宣伝活動に努める。	
12 来年度に向けての改善方策案	・保護者と生徒に向けて育友会行事の啓蒙・宣伝活動に努力する。	
総合評価 A (B) C D		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇図書部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事の充実や、施設・設備の充実を望む声がある。 ・小論文や課題研究等のための資料の充実が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇小論文・課題研究等の学習活動のための資料収集と情報提供。 ◇資料を効果的に利用し、読む力だけでなく、自ら考え問題提起のできる力の育成。 ◇豊かな読書生活を展望できるきっかけの提供。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書運営委員会 ・図書選定委員会 ・生徒図書委員会 ・図書部	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) バランスの取れた蔵書配置と適切な廃棄の実施。 (2) 「現代フォーラム」継続実施と「現代を読む」等の作成。 (3) 朝読書の継続発展。	(1) 利用者の満足度と図書館の円滑な運営。 (2) 各行事や刊行物の充実。 (3) 読書に親しむきっかけづくり。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・図書資料の収集と蔵書配置のための廃棄の実施。 ・現代フォーラムを2回実施。 ・朝読書の対象を1、2年生に拡大した。	①生徒職員の要望に応えた図書資料が適切に配置できたか。 ②生徒の考える力を伸ばすことができたか。 ③読書生活が豊かなものになったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○図書館の運営は、継続してスムーズに行えた。 ○「朝読書」を1、2学年で実施できた。 ●現代フォーラム等のよりスムーズな運営が課題である。 ●生徒のより自主的な活動が望まれる。	
総合評価 A (B) C D		
12 来年度に向けての改善方策案		
・朝読書の継続的発展。 ・図書委員会の活動の充実。 ・行事運営の準備を早めに取り組む。		

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教育相談	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・多様な生徒が入学し、不適応生徒も多様化しているため、保護者や職員間の連携を図り、生徒の状況を正確に把握しながら対応する必要がある。 ・保護者への「教職員は悩みを持つ生徒に対して親身に相談に乗っている」という項目では、肯定的意見は昨年度より若干下がっているが、A（よくあてはまる）という積極的な肯定意見は若干上がり、D（まったくあてはまらない）という積極的な否定意見は若干下がっている。生徒への「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」という項目では、肯定的な意見が6割で昨年度より上がり、否定的な意見は下がっている。生徒の中で教師が相談相手として位置づけられており、教師も概ね親身な対応をしていることがわかる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇日常的な相談活動と情報交換により生徒の状況把握に努め、関係者との連携を図って、高校生活への適応と自立への支援をする。 ◇人権同和教育を推進し、自他の人権を尊重する態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任や学年会との連絡、連携 ・生徒指導部との定期的な情報交換、連携 ・職員会議での生徒に関する情報交換	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校不適応生徒に関する情報収集、情報交換による状況把握 (2) 関係者との連携と相談活動	(1) 情報交換が不断に行われているか。 (2) 生徒の状況を踏まえた適切な連携と相談活動が実施されているか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・情報収集と情報交換（担任・学年会・生徒指導部会・職員会議等） ・hyper-QU、夏休み明けの統一LHRの実施 ・日常的な相談活動（気になる生徒への声かけ、生徒・保護者との面談等） ・迷惑調査、人権統一LHRの実施、「人権便り」の発行	①情報交換による共通理解ができてきているか。 ②学校不適応生徒への適切な相談活動ができたか。 ③人権意識を高め、人権侵害の早期発見・早期対応に努めているか。	A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	○ 学校不適応生徒に関する様々な場での情報収集と情報交換によって、職員間の共通理解が得られ、配慮を持った指導ができた。 ○ hyper-QU の実施と職員研修会、迷惑調査の集計結果報告、夏休み明けの統一LHR実施などを通して、生徒理解を深めることができた。 ● 学校不適応生徒の保護者との面談はしばしば行ったが、全く登校しない生徒への直接の対応は不十分だった。教育相談部としてのコンタクトの取り方や専門機関との連携について検討したい。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・不登校や発達障がい等の生徒に適切に対応するため、研修や専門機関との連携のあり方を検討する。		

総合評価

A (B) C D

平成25年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 理数科	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科に対する生徒・保護者の満足度は高い。 ・家庭学習時間は増えている。しかし、模試結果はあまり良くない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 科学的、数学的な能力を高め、柔軟な思考力や新しい進歩を生み出す創造的な能力を育成する。 ◇ 自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇ 広報の充実 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科推進委員会 ・理数科会議 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 理数科の諸行事の効果的活用 (2) 家庭学習を中心に、学習に対する継続的な指導・援助を行い、学力の定着を図る。	(1) 諸行事への取り組み状況およびアンケート分析 (2) 家庭学習時間の確保・模擬試験の成績分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生理数科オリエンテーションの実施 ・課題研究 ・校外研修の事前学習の実施 ・2、3年生合同LHRの実施 	①科学的なことに興味関心が持ち、積極的に行事に取り組んだか。 ②学習に意欲的に取り組んでいるか。 ③理数科に入って良かったと感じているか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題研究については、本校理系の生徒および古川中学校の生徒への公開を試みることができた。また、内容も充実したものであった。 ○ 校外研修については、事前学習を継続し、重力波の講義を入れることで充実がはかられた。 ● 定員割れやそれに伴う従来とは若干異なる理数科の生徒が増加していることに対しては、有効な措置はとれていない。 ● 理数科の在り方についての考察が十分に出来ていない。行事をスムーズに進めて行く上での連携が上手く図られるように改善すべきである。 	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の単位導入に対する諸問題解決への取り組み。 ・課題研究において、プレゼン能力の向上を目指す。 ・理数科会議の定例化。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成26年1月31日

【意見・要望・評価等】

- ・今年度の取組の説明を聞き、いろいろと努力していることが分かる。本日、授業を見学し、先生方がしっかりと指導していること、論文指導も、学校として取り組んでいることが分かった。
- ・挨拶をしない生徒が多い、とのことだが、毎朝、私の出勤時に挨拶をしてくれる吉城高校生がいる。
- ・私は本校サッカー部のOBであり、今年度の地区総体優勝は大変うれしい。また、元気のある授業を見せてもらった。人命救助の記事も読んだ。元気な生徒が多く、大変よい。
- ・少子化への対策としては、例えば、理数科なら進学実績に特化すること、就職指導なら吉城高校は公務員に強いことなど、特色を打ち出せるとよい。地域との連携も重要である。
- ・授業も学校生活も、一生懸命に指導していただいている。また、新聞記事を見ていて、報道されることは、大変うれしい。
- ・総合学科のように、高校入学後に幅広く進路を考えさせる指導は、興味深い。
- ・育友会主催の進路フォーラムは、3年生とその保護者だけでなく、2年生や1年生、その保護者など、もっと多くの方に参加してもらい活発になってほしい。